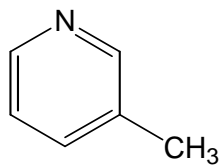


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 52	官報公示 整理番号	5 - 711(化審法) 1 - 336(化学物質管理促進法)	CAS 番号	108 - 99 - 6
名 称	3-メチルピリジン 別名：3-ピコリン、 -ピコリン		構 造 式		
分子式	C ₆ H ₇ N		分子 量	93.13	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99%以上 不純物 : 4-メチルピリジン 添加剤または安定剤: 無添加					
物理・化学的性状データ 外 観: 無色液体 ²⁾ 融 点: -18.3 (凝固点) ²⁾ 沸 点: 143 ~ 144 ²⁾ 引 火 点: 38 (c.c.) ³⁾ 発 火 点: 文献なし 爆発限界: 1.3 ~ 8.7%(空気中) ³⁾ 比 重: d ₄ ¹⁵ 0.9613 ²⁾ 蒸気密度: 3.21(空気 = 1) 蒸 気 圧: 805 Pa(6.05 mmHg)(25) ²⁾ 分配係数: log Pow ; 1.20(実測値) ²⁾ 、1.35(計算値) ⁴⁾ 加水分解性: 加水分解を受けやすい化学結合なし 解離定数: pKa = 5.63(25) ²⁾ スペクトル: 主要マススペクトルフラグメント m/z 93(基準ピーク, 1.0)、66(0.37)、92(0.29) ⁵⁾ 吸脱着性: 土壌吸着係数 K _{oc} ; 110 ²⁾ 粒度分布: 該当せず 溶 解 性: 水と混和 ^{3, 6)} アルコール、エーテルなどの有機溶媒に混和 ⁶⁾ 換算係数: 1 ppm = 3.87 mg/m ³ (気体, 20) 1 mg/m ³ = 0.258 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトにおける急性影響として本物質の蒸気への暴露で血管平滑筋の緊張低下、徐脈傾向などの自律神経障害がみられている。

実験動物においては、急性毒性は強い。眼及び皮膚への重度の刺激性が認められているが、感作性はみられていない。復帰突然変異試験の結果は陰性で、マウス及びラットのいずれにおいても明確な発がん性はみられていない。生殖・発生毒性に関する報告はない。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されるが底質では分解されない。大気中では速やかに分解されると予想される。環境省のモニタリングでは水質、底質及び魚類中から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は弱い。

2) 指摘事項

- (1) ヒトで急性影響として自律神経障害がみられている。
- (2) 実験動物で眼及び皮膚に重度の刺激性を示す。
- (3) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(2001).
- 3) IPCS, International Chemical Safety Cards(1989).
- 4) KowWin ver 1.66, Syracuse Research Corporation(2001).
- 5) NIST Library of 54K Compounds(1998).
- 6) The Merck Index, 13th. Ed., Merck & Co., Inc.(2001).